

平成 30 年度 第 2 回『汽水の松江堀川』魅力アップ協議会
議事要旨

日 時：平成 31 年 3 月 8 日(金)15:00－17:00

場 所：島根県職員会館 健康教育室

出席者：別紙出席者名簿のとおり

【議事】

(1) これまでの活動による成果及び来年度の活動予定

○生き物調査、啓発活動について

資料－1 で事務局より説明

(2) その他

○ホシザキグリーン財団の環境修復に関する調査研究

別資料でホシザキグリーン財団より説明

○水草、藻の繁茂に対する調査、検討について

資料－2 で事務局より説明

○来年度の活動スケジュール

資料－3 で事務局より説明

【質疑・意見】

《生き物調査、啓発活動について》

- ・クサガメは罠に慣れたため、捕獲数が減っている可能性があるということだが、アカミミガメも慣れているのではないか
 - 慣れている可能性は有るが、アカミミガメは捕獲後に持ち帰っているのに対し、クサガメはリリースしているため、クサガメの方が慣れている可能性が高い。ただし、アカミミガメの場合は、痕跡から判断すると、罠に入った後に逃げ出しているという可能性がある。
- ・城山内堀川以外の河川でのアカミミガメ対策の予定は
 - 城山内堀川の場合は、アカミミガメが多く生息していることに加え、他種の生き物がアカミミガメの影響を受けやすい閉鎖区間であり、観光スポットでもあるということで対策を行っている。
他河川でも、アカミミガメが増えることで他の生き物が減少し、生態系のバランスが崩れるようなことがある場合、対策が必要となってくるが、現在の城山内堀川での取り組み等を通して啓発活動を行うことで、アカミミガメ防除の活動が自治体や地元住民の方々に広がれば良いと考えている。

- ・イシガメを増やすために何かできないか
 - 城山内堀川のイシガメは老体が多く、繁殖力も弱い。加えてイシガメは環境変化への適応が難しいこともあり、他から持ち込んでも増えない可能性が高いので城山内堀川のみで考えると増やすことは難しい。ただし、中川ではイシガメを複数個体確認していることに加え、緩傾斜の土堤や木陰、草による隠れ場もあり、生息環境としては整っているので、中川から城山内堀川へ移動してくることでイシガメが増えてくるといった可能性はある。そのため城山内堀川でも整備により中川と同じような生息環境を確保することも必要となる。
- ・外来種対策は何もしなくなると増えるので、継続していくことが基本となる。データから判断すると明らかにアカミミガメの捕獲数が減少しており、現在の頻度で行うことは効率的でないのは明らかなので、頻度を減らすことは良い。ただ城山内堀川での調査について「縮小」と記載されているが、状況にあわせた対応が必要と考える。
 - 最初は月 1 回程度を予定しているが、調査結果を見た上で、状況にあわせて効率的な捕獲方法を検討する。

《ホシザキグリーン財団の環境修復に関する調査研究について》

- ・田町川のようなコンクリート張の環境でアカミミガメが多い理由は
 - 原因は明らかではないが、アカミミガメは一般的に見て生息環境として悪い場所に多く生息していることが多い。コンクリート張やブロック積だと在来のカメ類にとっては生息しにくい環境となりアカミミガメが増えやすいので、在来のカメ類に配慮し、中川のような河川整備が行われると良い。

《水草、藻の繁茂に対する調査検討について》

- ・水草、藻の処分については、より効率的な方法について検討している
- ・宍道湖では根から処分しても、その年度は生えてこないが、次年度については、繁茂している状況。
- ・平成 29 年度の繁茂は透明度のみでなく、栄養分の流出も影響している可能性がある。
- ・松江堀川では水草・藻の中でもマツモがよく繁茂しているが、マツモは一部分でも残っているとそこから繁殖を続ける。そのため人力により確実に回収していく方が効率的と考えられる。